

2025年3月期 第2四半期（中間期） 決算説明会資料

2024年11月18日

新明和工業株式会社

ShinMaywa
VISION WITH INSIGHT

2025年3月期 第2四半期（中間期） 連結決算実績

- ※ 当資料に掲載されている内容のうち数値は表示単位未満を切り捨て、比率は四捨五入して表示しています。
- ※ 当資料において「1Q」は3カ月累計期間、「中間期」は6カ月累計期間、「3Q」は9カ月累計期間、「通期」は12カ月累計期間を示しています。

2025年3月期 第2四半期（中間期）決算

- 受注高および売上高は、中間期として過去最高。
- 前期比では、産機・環境システムを除く全てのセグメントが増収増益。
- 社内計画比では、売上高は概ね順調に推移しており、営業利益は為替の影響や製品構成差などにより、計画を上回る。

2025年3月期 通期業績予想

- 中間期の実績および今後の見通しを勘案し、通期業績予想を修正。EV市場の減速および海外民間航空機の停滞などはあるものの、各利益項目は据え置き。

（単位：百万円）

	24.3期 中間期	25.3期 中間期	増減（増減率）
受注高	128,631	143,023	+ 14,391 (+ 11.2%)
売上高	116,464	124,065	+ 7,600 (+ 6.5%)
営業利益	4,431	5,723	+ 1,291 (+ 29.1%)
経常利益	4,858	5,570	+ 711 (+ 14.7%)
親会社株主に帰属する 中間純利益	2,974	3,179	+ 205 (+ 6.9%)
受注残高	269,205	313,582	+ 44,377 (+ 16.5%)
為替レート (1USドル)	140.3円	152.5円	

前年同期比

受注高

- 「パーキングシステム」「産機・環境システム」を除く全てのセグメントが増加した結果、全体では増加。
- 中間期としては過去最高。

売上高

- 「産機・環境システム」を除く全てのセグメントで増収となり、全体では増収。
- 中間期としては過去最高。

利益

- 増収による増益。

2025年3月期 第2四半期（中間期） 連結決算実績 セグメント別

（単位：億円）

セグメント	受注高			売上高			営業利益		
	24.3期 中間期	25.3期 中間期	増減	24.3期 中間期	25.3期 中間期	増減	24.3期 中間期	25.3期 中間期	増減
特装車	538	612	+73	482	518	+36	11	21	+9
パーキングシステム	236	233	△2	184	210	+26	14	17	+3
産機・環境システム	164	148	△16	196	169	△27	17	14	△3
流体	143	159	+16	92	101	+8	3	5	+1
航空機	119	185	+66	147	155	+8	10	12	+1
その他	84	90	+6	61	85	+23	2	5	+2
調整額	—	—	—	—	—	—	△15	△18	△3
合計	1,286	1,430	+143	1,164	1,240	+76	44	57	+12

2025年3月期 第2四半期（中間期）連結決算実績 利益増減明細（前年同期比）

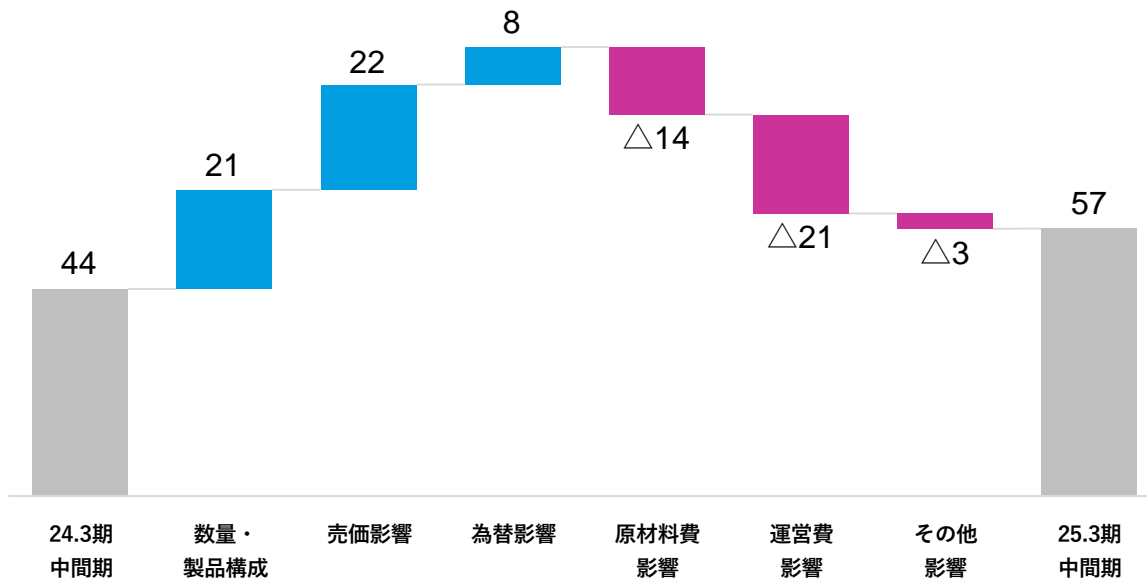
要因別

原材料費増加△14億円や運営費増加(人件費、減価償却費他)△21億円などの減益要因はあるも、売上増加に加え、為替影響や「特装車」売価改定効果もあり、全体では増益。

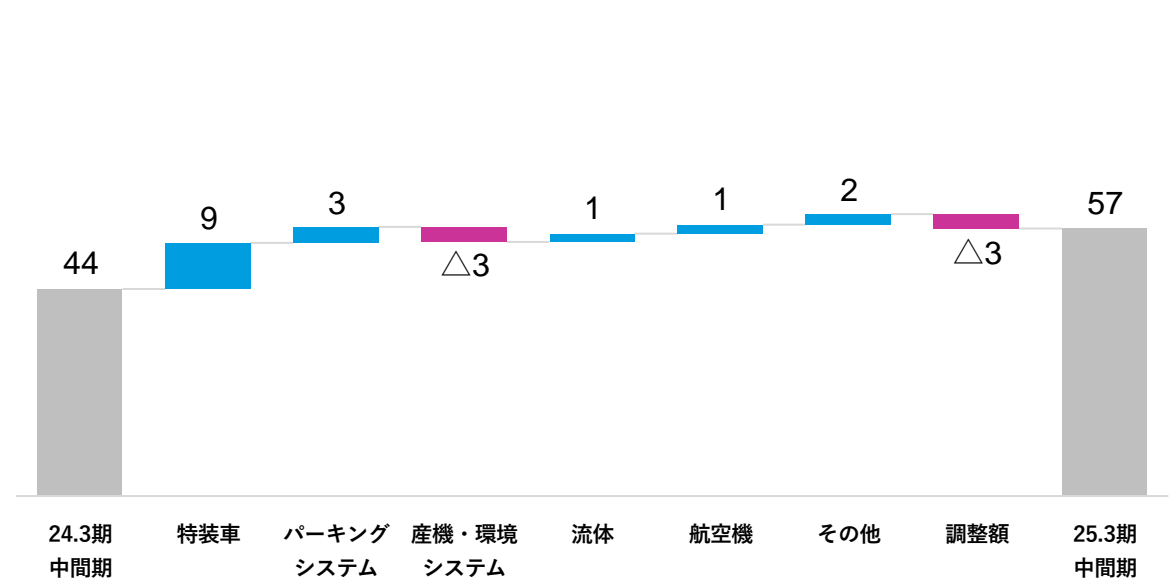
事業別

「特装車」は売価改定効果等により+9億円、「パーキングシステム」は航空旅客搭乗橋の増益等により+3億円となるなど、「産機・環境システム」を除く全てのセグメントで増益。

25.3期中間期 前年同期比 **要因別** 単位：億円



25.3期中間期 前年同期比 **事業別** 単位：億円



連結貸借対照表

(単位：百万円)

	24.3期末	25.3期 中間期末	増減
現預金	23,382	19,655	△3,727
売上債権	91,140	77,050	△14,090
棚卸資産	58,684	62,732	+4,048
有形・無形固定資産	47,628	49,950	+2,321
その他資産	39,266	36,964	△2,302
資産合計	260,102	246,352	△13,749
買入債務	34,166	29,639	△4,527
有利子負債	50,616	45,619	△4,997
その他負債	66,584	60,409	△6,175
負債合計	151,367	135,667	△15,700
自己資本	107,008	108,511	+1,502
その他純資産	1,725	2,173	+447
純資産合計	108,734	110,684	+1,950
負債・純資産合計	260,102	246,352	△13,749
自己資本比率	41.1%	44.0%	
ネットD/Eレシオ	0.25倍	0.24倍	

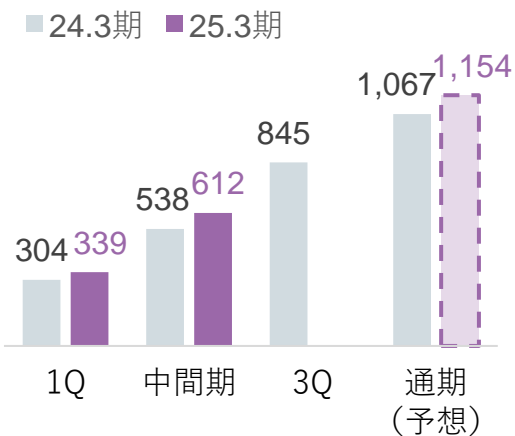
連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

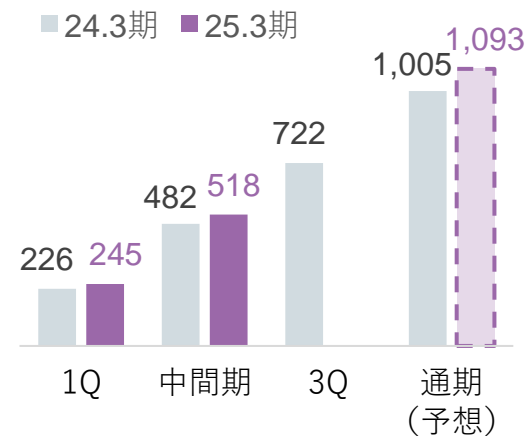
	24.3期 中間期	25.3期 中間期	増減
営業活動による キャッシュ・フロー	△14,676	9,404	+24,081
投資活動による キャッシュ・フロー	△3,028	△5,924	△2,896
フリー・ キャッシュ・フロー	△17,704	3,479	+21,184
財務活動による キャッシュ・フロー	15,797	△7,776	△23,573

業績推移 (単位：億円)

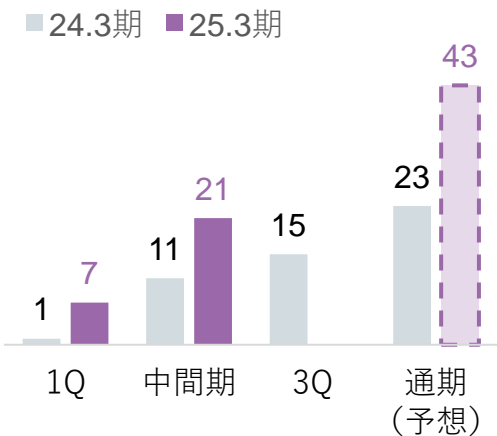
受注高



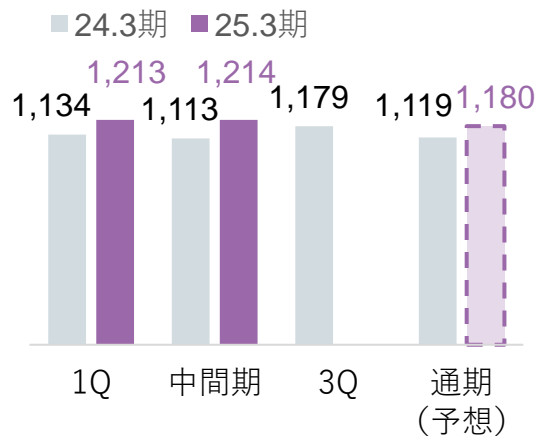
売上高



営業利益



受注残高



中間期 (前年同期比)

受注高

- 林業用機械等の減少
- 物流関連車両（トレーラ含む）、環境関連車両の増加
- 航空機セグメントとの協業による防衛事業の増加

売上高

- 主要部品供給遅延の緩和・売価改定効果等による増収

営業利益

- 増収による増益（売価改定効果含む）

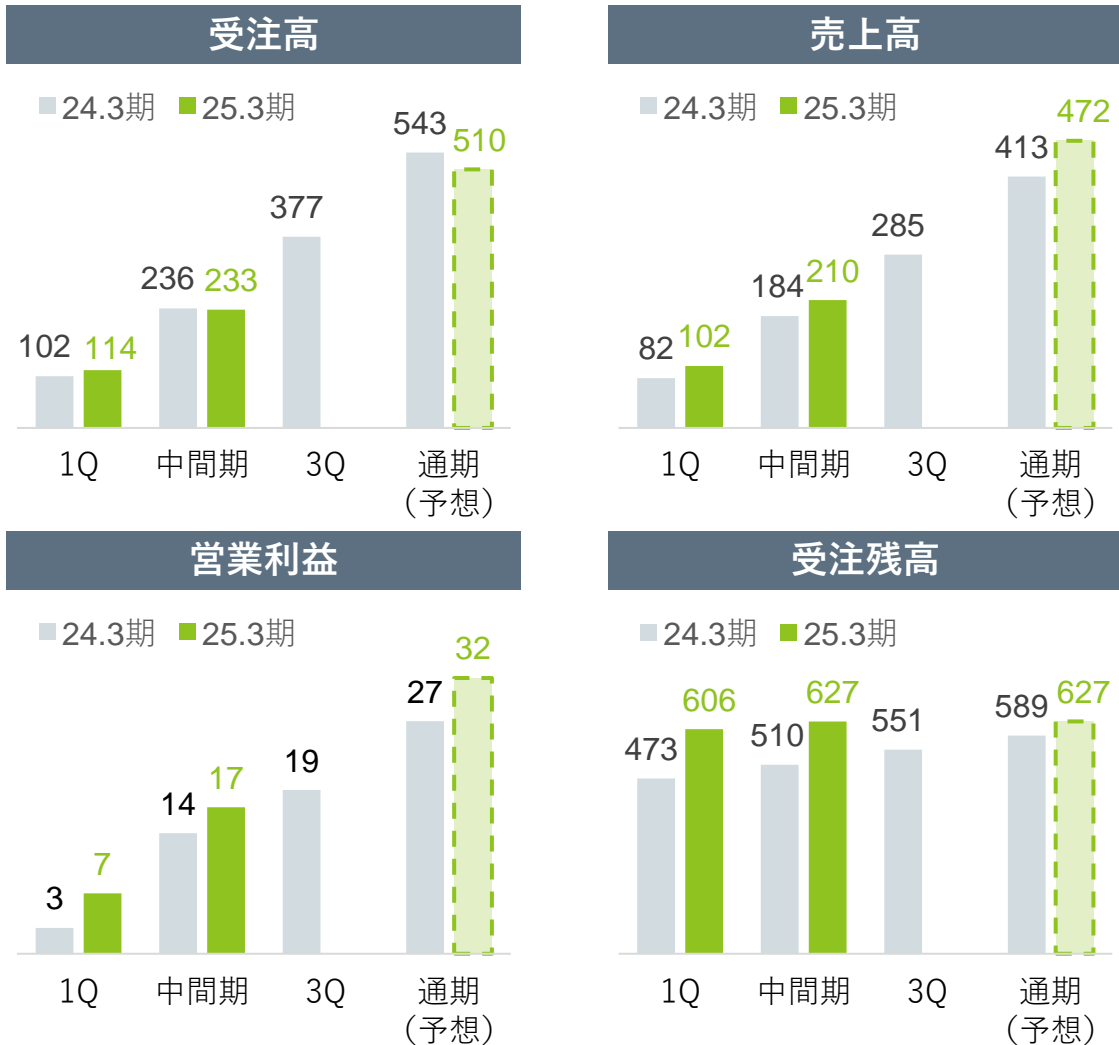
受注残高の手持月数推移

(単位：カ月) ※

24.3期				25.3期			
1Q	中間期	3Q	通期	1Q	中間期	3Q	通期 (予想)
12.7	12.8	14.2	13.4	12.9	13.3	-	13.0

※受注残高÷1カ月当たりの売上高で算出（1Q～3Q実績は通期業績予想を基準に算出）

業績推移 (単位：億円)



中間期 (前年同期比)

受注高

機械式駐車設備：連結子会社（新明和パークテック）の減少
航空旅客搭乗橋：前年同期並みの水準

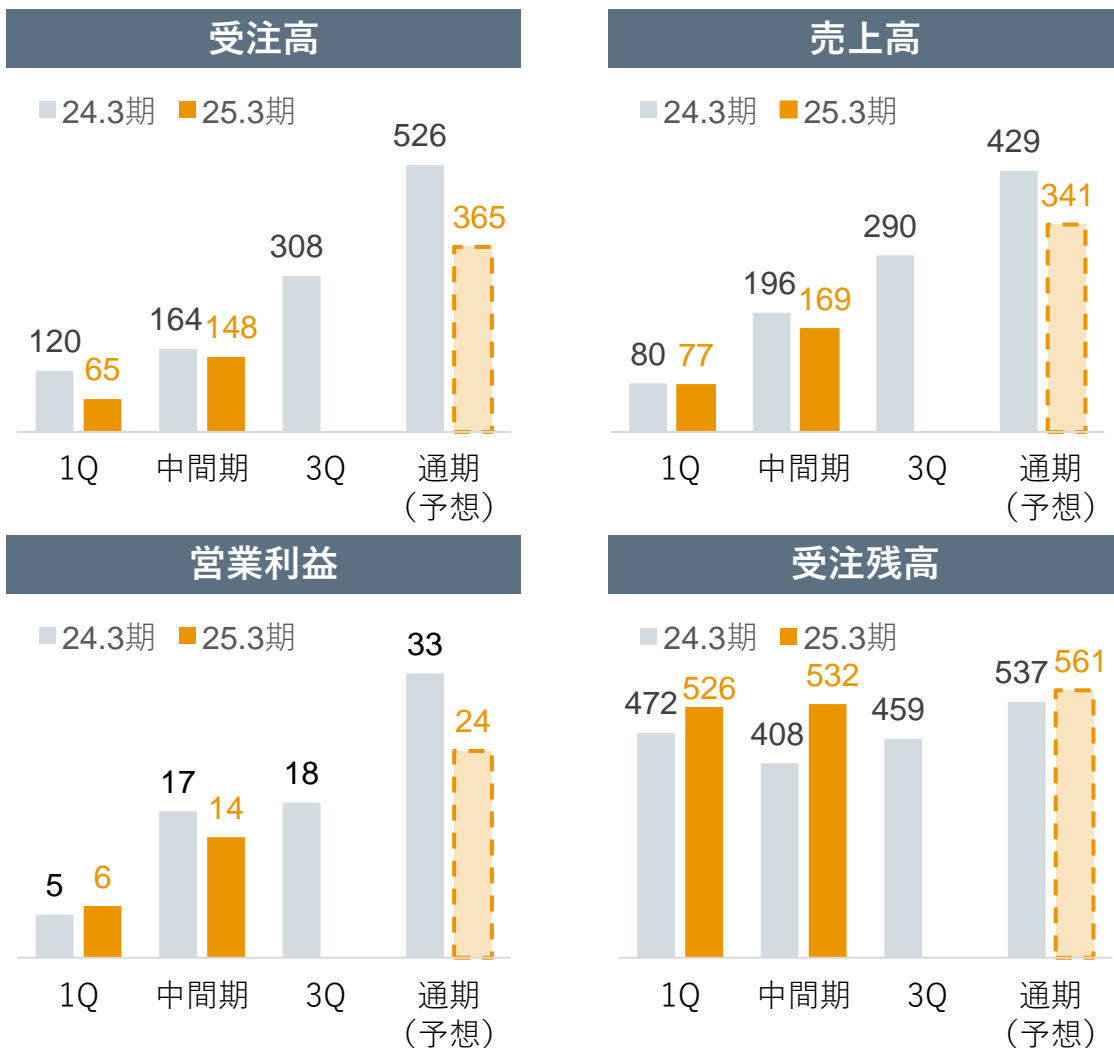
売上高

機械式駐車設備：連結子会社（新明和パークテック）の増収
航空旅客搭乗橋：海外の増加

営業利益

機械式駐車設備：運営費の増加による減益
航空旅客搭乗橋：増収による増益

業績推移 (単位：億円)



中間期 (前年同期比)

受注高

メカトロニクス製品：前年同期並みの水準
環境関連事業：プラント案件の減少

売上高

メカトロニクス製品：真空製品の減少
環境関連事業：プラント案件の増加

営業利益

メカトロニクス製品：減収による減益
環境関連事業：一過性の費用発生による減益

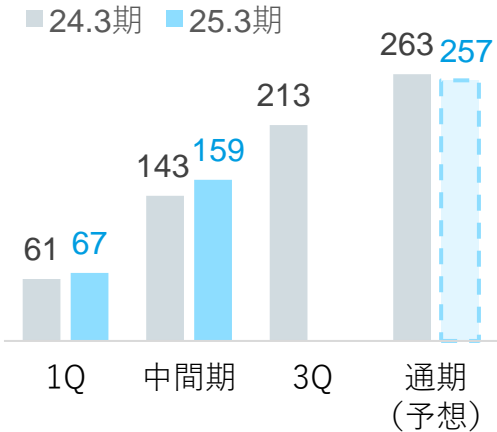
サブセグメント別 受注高・売上高推移

(単位：億円)

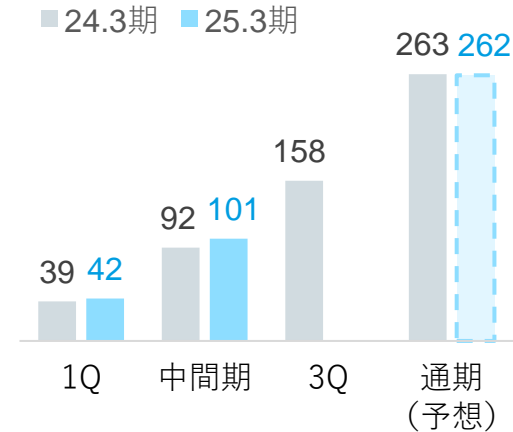
サブセグメント	24.3期				25.3期			
	1Q	中間期	3Q	通期	1Q	中間期	3Q	通期(予想)
メカトロニクス製品	受注高	41	69	110	214	26	68	172
	売上高	61	149	207	279	44	101	174
環境関連事業	受注高	78	95	198	311	39	80	193
	売上高	19	47	82	150	33	68	167

業績推移 (単位：億円)

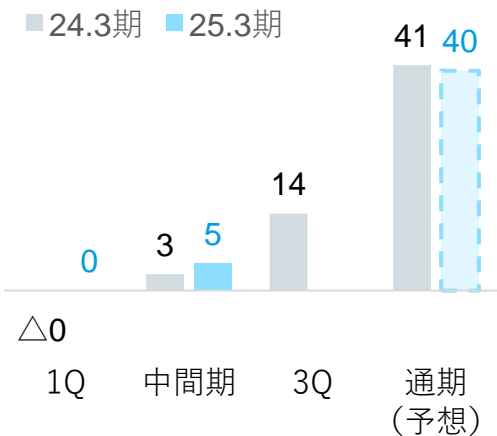
受注高



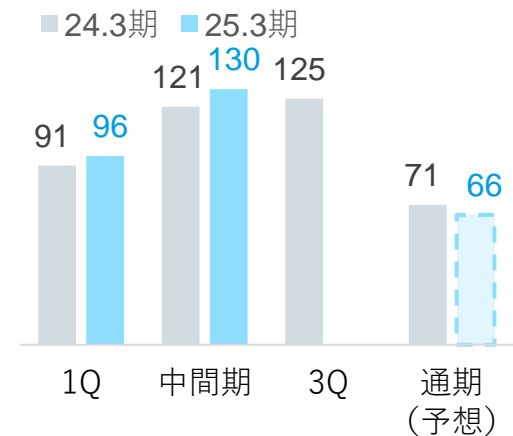
売上高



営業利益



受注残高



中間期 (前年同期比)

受注高

- 国内、海外ともに増加

売上高

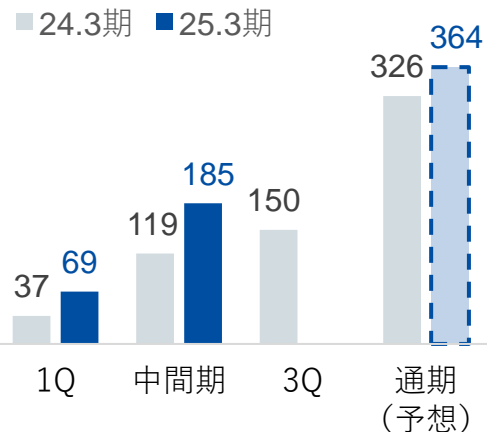
- システム製品の減少
- 海外の増加

営業利益

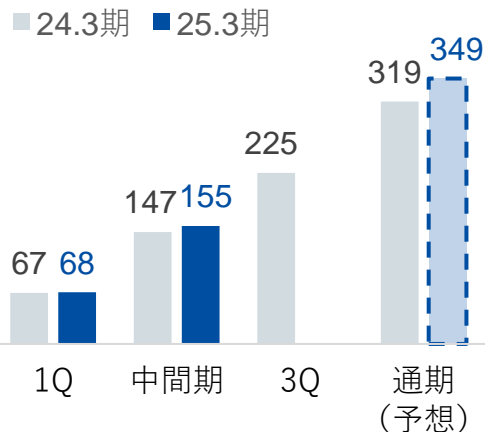
- 増収による増益 (売価改定効果含む)

業績推移 (単位：億円)

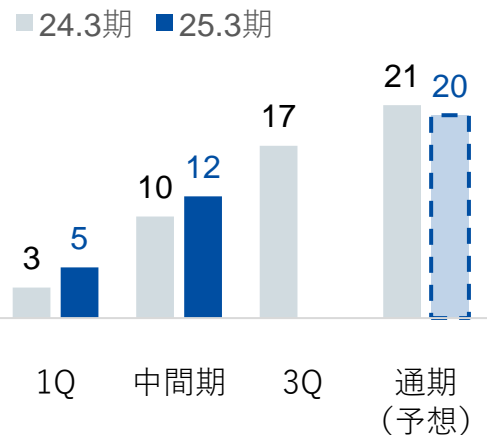
受注高



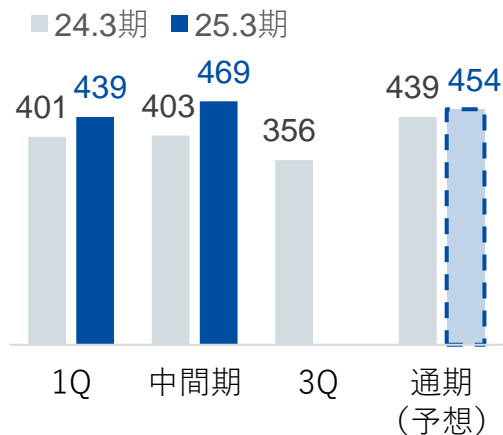
売上高



営業利益



受注残高



中間期 (前年同期比)

受注高

防衛省向け：US-2型救難飛行艇 修理関連の増加
 民需関連：「G7500」受注機数増加

売上高

防衛省向け：輸送機向けコンポーネントの増加
 民需関連：「787」生産機数増加
 為替の円安による増収

営業利益

増収および為替の円安等による増益

民需関連 生産機数

(単位：機)

	24.3期 中間期	25.3期 中間期
777/777X	17	15
787	15	22
G7500	18	14

2025年3月期 連結業績予想

2025年3月期 連結業績予想 サマリー

(単位：百万円)

	24.3期 実績	25.3期 予想		増減 (増減率)			
		従来予想	修正予想	前期比		従来予想比	
受注高	291,370	280,000	280,000	△11,370	(△3.9%)	—	(—)
売上高	257,060	285,000	270,000	+12,939	(+5.0%)	△15,000	(△5.3%)
営業利益	11,765	13,000	13,000	+1,234	(+10.5%)	—	(—)
経常利益	12,106	12,200	12,200	+93	(+0.8%)	—	(—)
親会社株主に帰属する 当期純利益	7,279	7,500	7,500	+220	(+3.0%)	—	(—)
受注残高	291,431	286,431	301,431	+10,000	(+3.4%)	+15,000	(+5.2%)
1株当たり年間配当金	47円	50円	50円	+3円		—	
DOE ^{※1}	3.0%	3.1%	3.1%	+0.1pt		—	
為替レート (1USドル)	144.8円	140.0円	140.0円 ^{※2}				

※1 DOE = 1株当たり配当金 ÷ 1株当たり自己資本 (期首期末平均)

※2 修正予想の為替レートについては、10月以降の前提レートを表示しています。

従来予想比

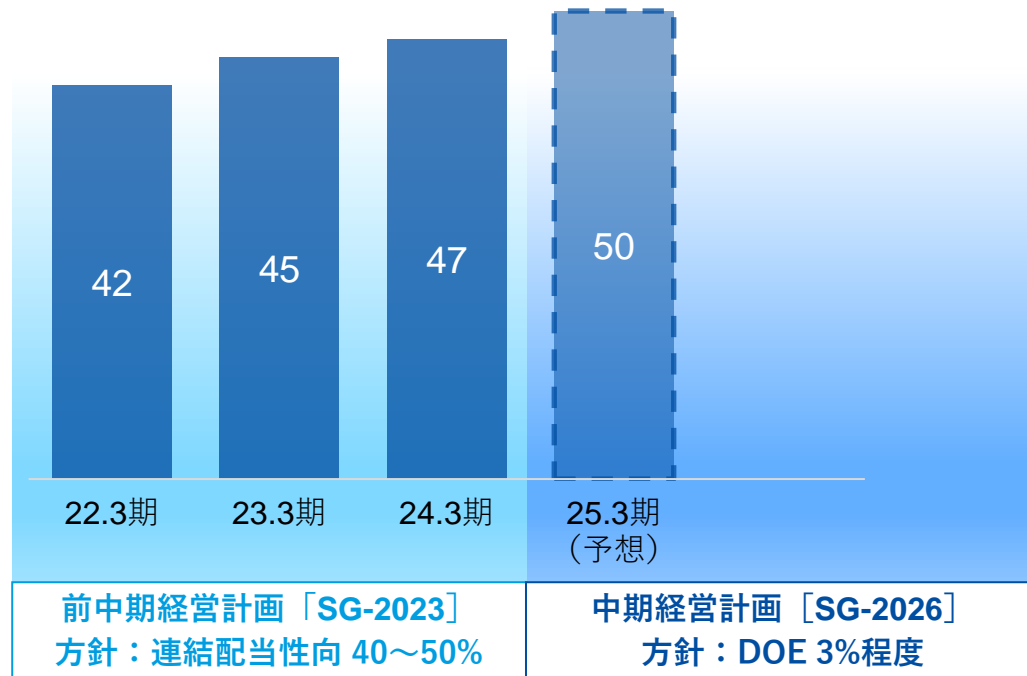
- 業績予想は、従来予想から売上高を下方修正。セグメント別内訳はスライド17参照。
- 受注高、利益は従来予想から据え置き。

為替感応度 (25.3期)

1円/USドルの円安進行で
約0.3億円の営業利益増






- 株主への安定的な利益還元のため、中期経営計画[SG-2026]期間中は、DOE3%程度を目途に配当を実施する方針。
- 財務健全性の基準（適正な自己資本水準）としては、自己資本比率40%以上・ネットD/Eレシオ0.5倍以内が適切と考えており、その維持に努めていく。

■ 1株当たり年間配当金（円）



配当予想

- 1株当たり年間配当は**50円**（DOE3.1%）で期初計画から据え置き。
- 前期比で**3円増配**予定。

セグメント		見通し
特装车		<ul style="list-style-type: none"> ➤ 建設関連車両、環境関連車両等の堅調な需要により、受注高は過去最高水準となる見通し。一方、主要部品の供給遅延等に伴う生産活動の停滞は、前期からは段階的に改善しているものの、期初計画に対して改善が遅れる見通し。 ➤ 原材料価格や人件費、物流費等のコストアップ要因はあるものの、二回の売価改定効果は、順調に受注に反映されており、今期の増益に寄与する見通し。
パーキングシステム		<ul style="list-style-type: none"> ➤ 機械式駐車設備の新設製品事業は、計画通り進捗しており引き合いも順調であるが案件の具体化や進捗遅れ等により市場は軟調となる見通し。一方サービス事業は、引き続き堅調に推移する見通し。前期と比較して原材料費や輸送費、人工単価等の高騰を見込むも、売価交渉やサービス事業の増収により、利益は増益となる見通し。 ➤ 航空旅客搭乗橋は、コロナ禍で延期、中断していた案件が動きだし、市場は回復傾向。入札案件が一部で来期にずれ込むことから、期初計画に対して受注・売上は減少する見込みであるものの原価低減などにより増益となり、前期比でも増収増益となる見通し。
産機・環境システム		<ul style="list-style-type: none"> ➤ メカトロ事業は、ここ数年業績拡大を続けてきた真空乾燥装置が、世界的なEV市場の減速と主要顧客の投資抑制により、北米の大口案件等が延期となり、受注・売上・営業利益いずれも前期・期初計画に対して下回る見込み。 ➤ 環境関連事業は、大口受注を獲得した前期に比べ受注は減少する見通しであるものの、需要は引き続き堅調に推移。売上は、一部のプラント案件で着工が遅れ（地中障害物が確認されたことによる）減少するものの、過去最高を更新する見込み。
流体		<ul style="list-style-type: none"> ➤ 国内官需関連は、豪雨災害等に伴う浸水対策として、排水ポンプの需要が引き続き堅調に推移する見込み。国内民需関連は、省エネ製品への関心が高く、食品・半導体・カーボンニュートラル分野等の工場向けなどで需要増が続く。海外関連もアジア市場、北米市場を中心に底堅く推移する見通しであり、海外売上高比率も増加傾向。 ➤ 売価改定の効果が表れ、期初計画に対して増益となる見込み。
航空機		<ul style="list-style-type: none"> ➤ 民需関連は、為替変動による業績影響が大きく、円安推移は増益要因。一方で、主力のボーイング社787向けコンポーネントの生産機数が、品質検査問題の影響を受け期初計画に対して減少する見込み。777向けコンポーネントについても、ボーイング社のストライキの影響で先行き不透明。 ➤ 防衛省向けは、防衛予算の増額を背景に、期初計画に対して増収増益となり、民需関連をカバーできる見通し。今後の利益率改善にも期待。

2025年3月期 連結業績予想 セグメント別（前期比）

（単位：億円）

セグメント	受注高			売上高			営業利益		
	24.3期 （実績）	25.3期 （予想）	増減	24.3期 （実績）	25.3期 （予想）	増減	24.3期 （実績）	25.3期 （予想）	増減
特装車	1,067	1,154	+86	1,005	1,093	+87	23	43	+19
パーキングシステム	543	510	△33	413	472	+58	27	32	+4
産機・環境システム	526	365	△161	429	341	△88	33	24	△9
流体	263	257	△6	263	262	△1	41	40	△1
航空機	326	364	+37	319	349	+29	21	20	△1
その他	186	150	△36	139	183	+43	6	11	+4
調整額	—	—	—	—	—	—	△36	△40	△3
合計	2,913	2,800	△113	2,570	2,700	+129	117	130	+12

2025年3月期 連結業績予想 セグメント別（従来予想比）

（単位：億円）

セグメント	受注高			売上高			営業利益		
	25.3期 （従来予想）	25.3期 （修正予想）	増減	25.3期 （従来予想）	25.3期 （修正予想）	増減	25.3期 （従来予想）	25.3期 （修正予想）	増減
特装車	1,050	1,154	+104	1,127	1,093	△34	42	43	+1
パーキングシステム	575	510	△65	498	472	△26	30	32	+2
産機・環境システム	408	365	△43	453	341	△112	30	24	△6
流体	255	257	+2	259	262	+3	38	40	+2
航空機	378	364	△14	347	349	+2	22	20	△2
その他	134	150	+16	166	183	+17	8	11	+3
調整額	—	—	—	—	—	—	△40	△40	—
合計	2,800	2,800	—	2,850	2,700	△150	130	130	—

中期経営計画 [SG-2026] 達成に向けて －特装車セグメント－

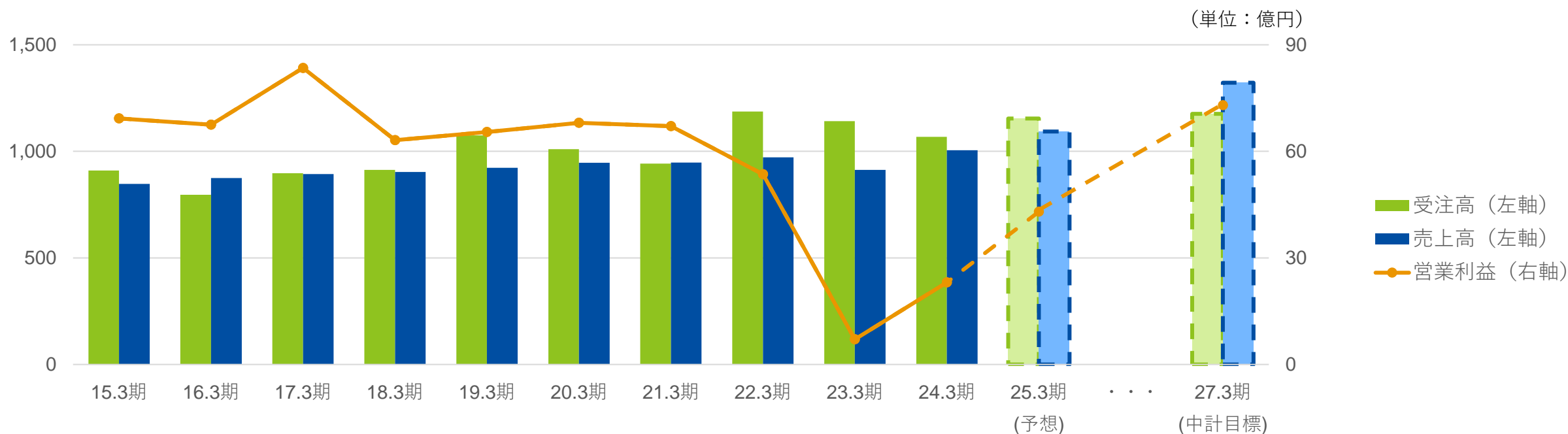
[SG-2026] 経営指標（セグメント別）

（単位：億円）

セグメント	売上高			営業利益		
	24.3期 (実績)	27.3期 (目標値)	成長率(%)	24.3期 (実績)	27.3期 (目標値)	成長率(%)
特装車	1,005	1,322	132%	23	73	315%
パーキングシステム	413	581	141%	27	45	162%
産機・環境システム	429	435	101%	33	34	101%
流体	263	280	106%	41	45	109%
航空機	319	389	122%	21	27	123%
その他	139	183	131%	6	10	149%
新事業	-	10	-	△5	△18	-
調整額	-	-	-	△31	△36	-
合計	2,570	3,200	124%	117	180	152%

特装車セグメント：業績の推移（直近10年間）と中計目標値

- 受注高、売上高ともに近年高水準で推移。
- 営業利益は、原材料費(部品費含む)高騰の影響により、23.3期に大幅に減少。部品調達の滞りが改善され、売価改善効果が漸増、利益は回復傾向。
- 売価改定と生産性向上等に取り組み、中計最終年度は営業利益73億円を目指す。



(単位：億円)	15.3期	16.3期	17.3期	18.3期	19.3期	20.3期	21.3期	22.3期	23.3期	24.3期	25.3期	27.3期
受注高	910	796	897	913	1,074	1,010	942	1,186	1,141	1,067	1,154	1,176
売上高	847	874	893	903	923	946	947	971	913	1,005	1,093	1,322
営業利益	69	67	83	63	65	68	67	53	7	23	43	73

□ : 過去最高



海外グループ会社

Thai ShinMaywa co., Ltd.

特装車部品などの製造・販売および流体製品の製造

国内生産拠点

- ① 特装車事業部 佐野工場
- ② 特装車事業部 寒川工場
- ③ 特装車事業部 広島工場
- ④ イワフジ工業株式会社
- ⑤ 東邦車輛株式会社 群馬製作所
- ⑥ 株式会社OSK 横浜工場
- ⑦ 株式会社OSK 本社工場
- ⑧ 株式会社WAKO 岡山工場

国内グループ会社

- ① イワフジ工業株式会社
林業機械の製造・販売
- ② 新明和オートエンジニアリング株式会社
各種特装車の保守・修理、関連部品販売
- ③ 新明和オートセールス株式会社
中古自動車の販売、搬送機器他の製造・販売・保守、廃棄物の処理設備などの製造・販売・保守
- ④ 株式会社エー・エス・エヌ
関西地区および静岡県東部地区における特装車のアフターサービス・特殊車両から軽車両までの車検、部品販売
- ⑤ 東邦車輛株式会社
トレーラ、タンクローリ、ウイングバンなどの特装車の製造・販売・保守・修理
- ⑥ 東邦車輛サービス株式会社
関西地区のトレーラ、タンクローリ、ウイングバンなどの特装車の保守・修理
- ⑦ 株式会社OSK
油圧ポンプ、減速機他油圧機器部品の製造および販売
- ⑧ 株式会社WAKO
油圧ポンプ、減速機他の鋳造加工、めっき加工

特装車セグメント：売上高構成比（24.3期）

主力製品

- 高性能林業機械

トップシェア



主力製品

- 塵芥車（ごみ収集車）
- 脱着ポデートラック

トップシェア

トップシェア

主力製品

- リヤダンプトラック

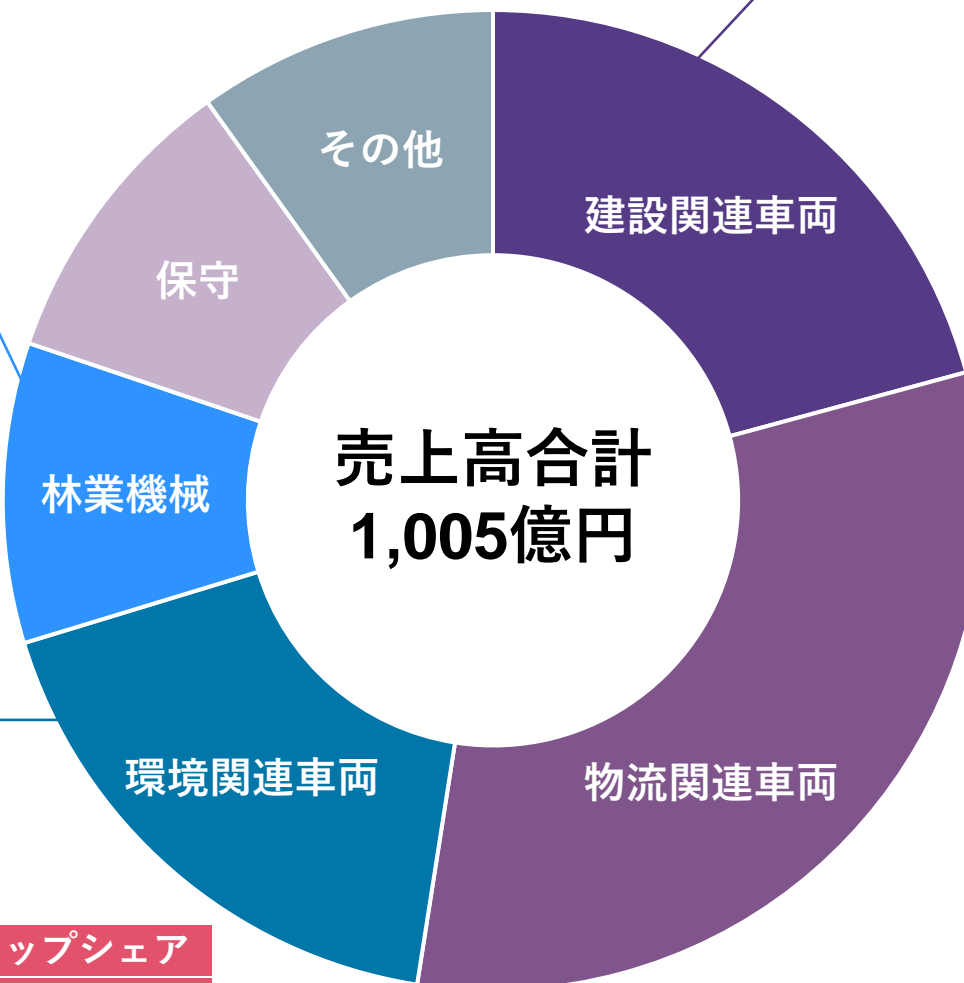
トップシェア



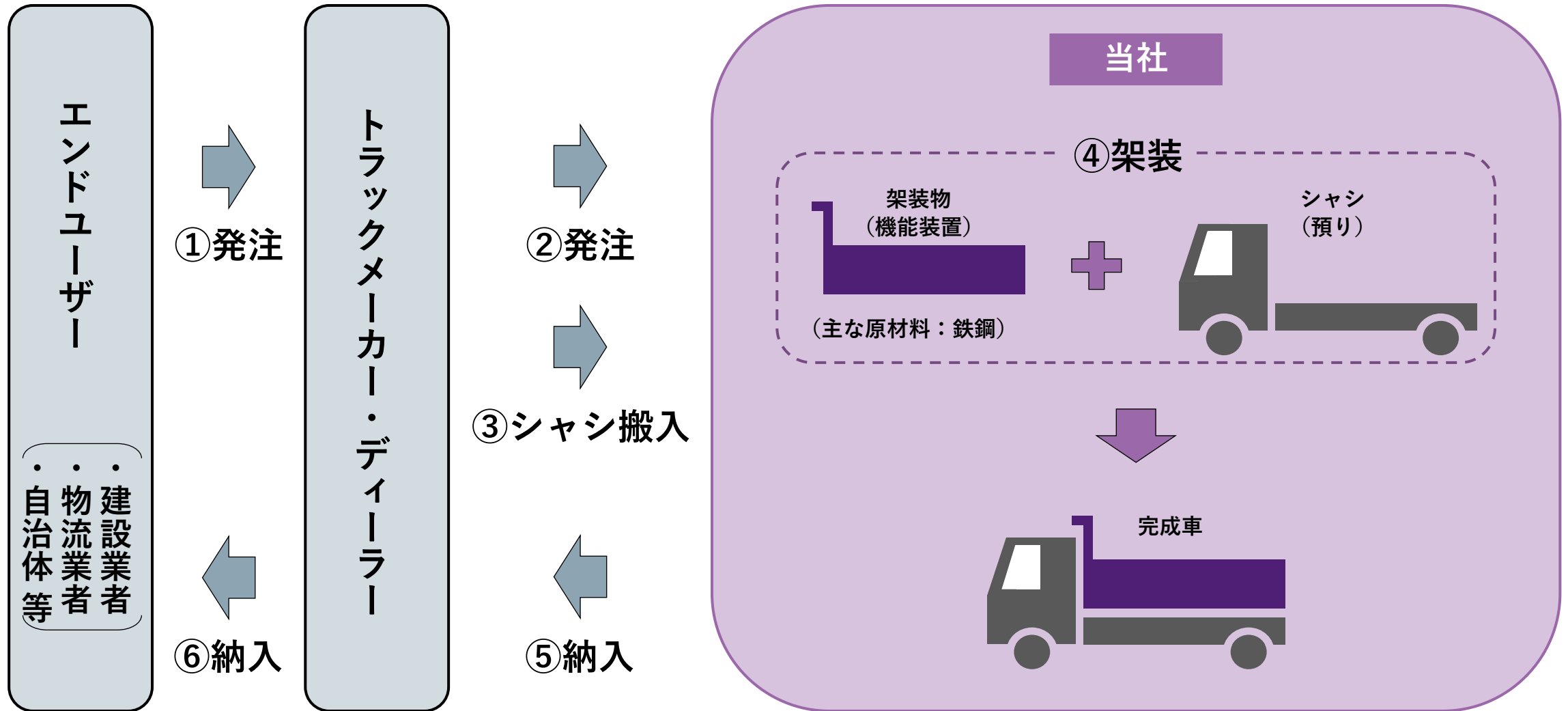
主力製品

- テールゲートリフタ
- トレーラ

トップシェア



売上高合計
1,005億円



※売上計上は架装物（機能装置）部分

事業環境

生産状況

- ▶ 主要部品の供給遅延等に伴う生産活動の停滞は、期初計画に対して若干遅れはあるものの、前期からは段階的に改善。徐々に正常化に向かっている。
- ▶ 本格回復は、来期となる見込み。

売価改定状況

- ▶ 売価改定後の受注は、順調に売上に反映されている（詳細は後述）。

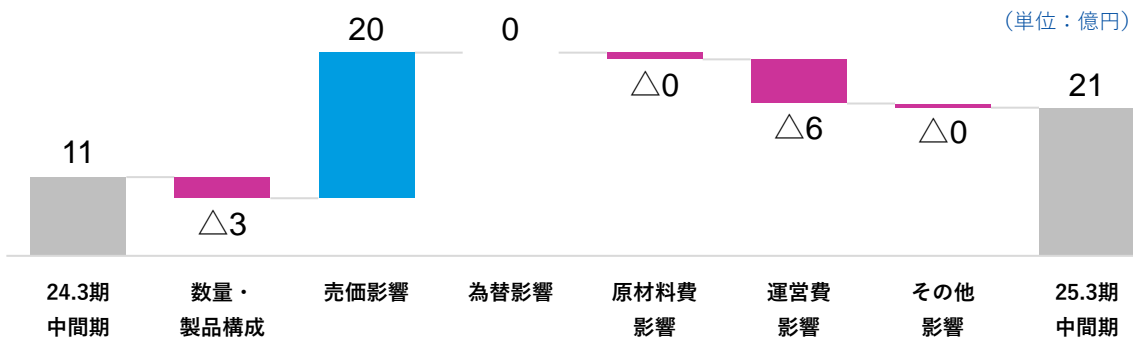
原材料費、運営費

- ▶ 原材料費は値上げ基調であるものの、期初計画に対しては原材料費の上昇による減益幅を抑制できている。
- ▶ 物流費や人件費などの運営費も増加傾向。
- ▶ 今後も物価上昇、設備投資の増加に伴う減価償却費の増加、賃上げ等の影響で、原価アップが見込まれる。

利益増減明細

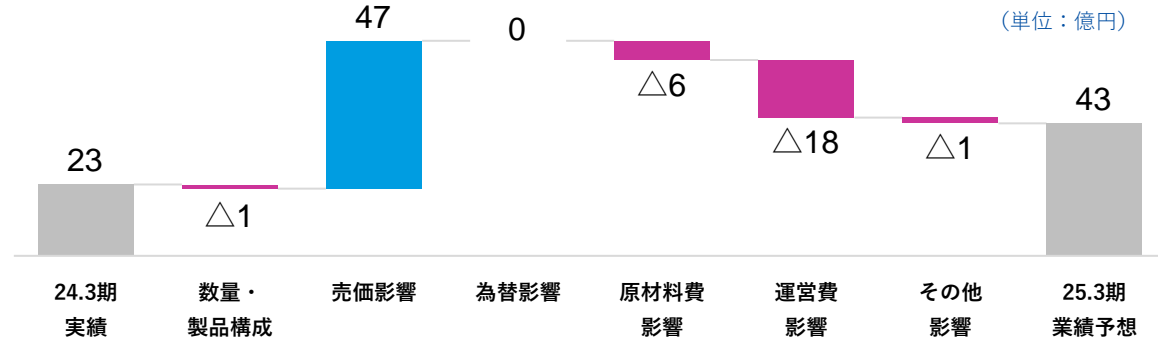
25.3期中間期（対前年同期比）

- ▶ 運営費増加△6億円などの減益要因はあるものの、売価改善効果20億円の効果により大幅増益。



通期予想（対前期比）

- ▶ 中間期実績と同様、売価改善効果47億円の効果により大幅増益となる見込み。



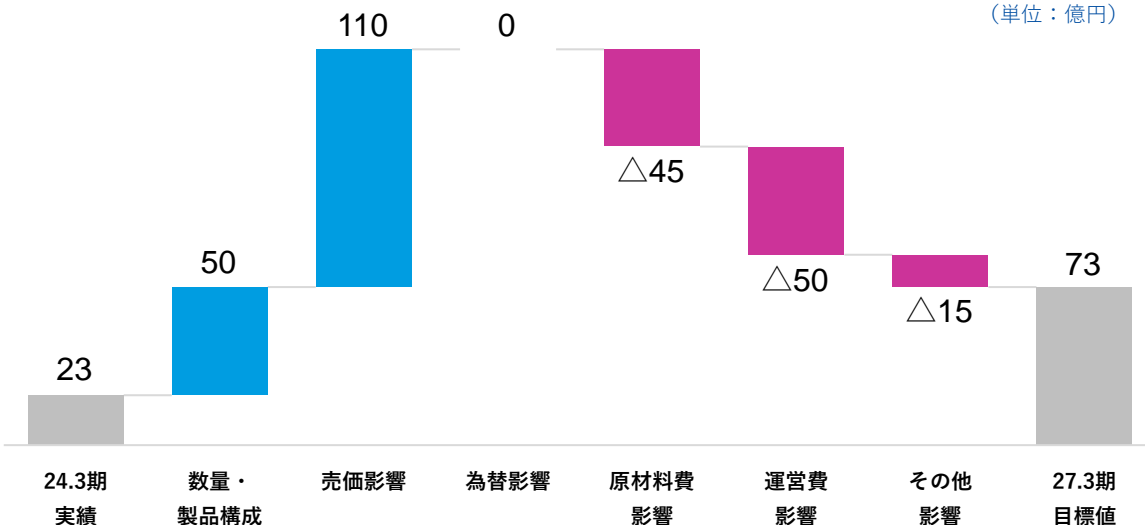
目標値

(単位：億円)

売上高			営業利益		
24.3期 (実績)	27.3期 (目標値)	成長率 (%)	24.3期 (実績)	27.3期 (目標値)	成長率 (%)
1,005	1,322	132%	23	73	315%

利益増減明細 (要因別)

(単位：億円)



事業方針

- ① 生産能力の増強と高付加価値化による収益力拡大
- ② 海外事業の強化による事業規模拡大
- ③ 高シェアを背景にストック事業の収益力拡大

市場環境

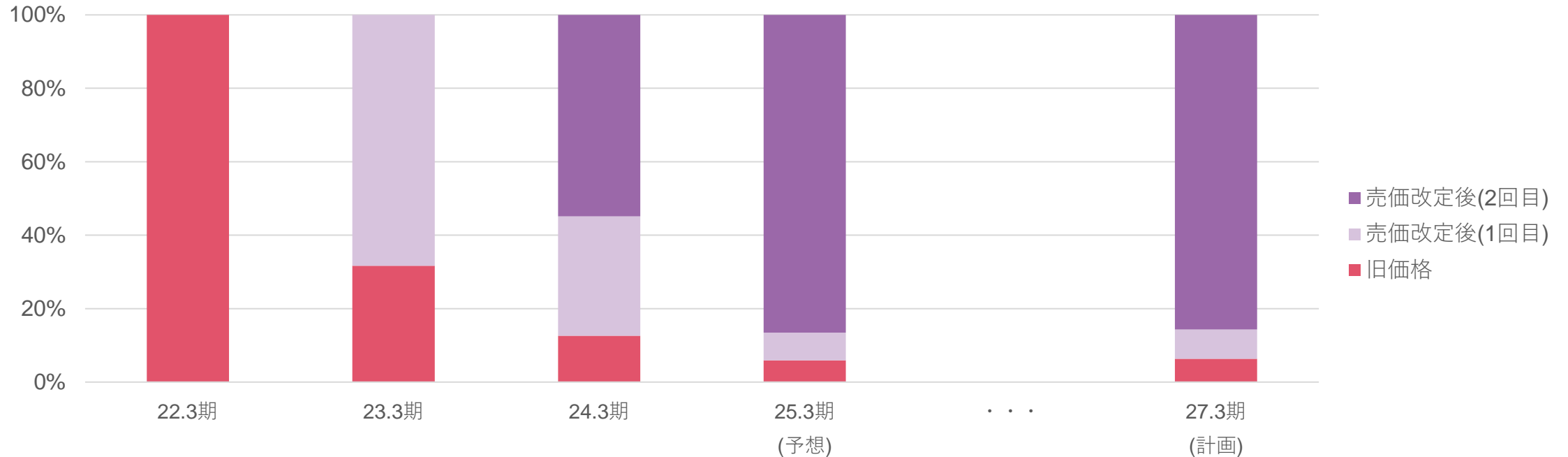
- **トラック市場**： 需要は2026年3月期以降にコロナ禍以前並みに戻る見通し
- **トレーラ市場**： けん引免許保有者の増加が見込めず、需要の大きな盛り上がりはないものの安定的に推移
- **林業機械市場**： 政府骨太方針等で国内材の利用促進が進む
- **建設機械市場**： 中国市場は2024年3月期を底とし回復傾向
欧州市場の需要は増加しているが紅海回避による輸送リードタイムの長期化が懸念事項

収益拡大策

- 高水準にある受注残高の早期収益化
- 売価改定効果の早期刈り取りに向けた生産増強と高付加価値化
- 航空機セグメントと協力し、防衛関連事業を強化
- サブスクリプションビジネスの拡大 (取扱台数、業界別メニューの充実等)
- 海外事業の拡大
 - ✓ Thai ShinMaywaを活用した機能部品販売の拡充
 - ✓ 提携先拡大によるコンポーネント製品の拡販

受注残高の構成推移 ※新明和工業 特装車事業部（単体）

※ 新明和工業 特装車事業部(単体)数値。量産品・部品・他一部製品除く国内取引が対象。



- 旧価格および1回目の売価改定後の受注残高は、順調に消化（売上計上）。
- 25.3期末の受注残高は、2回目の売価改定後のものが9割程度を占める見込み。
- 納期短縮を図り、売価改善効果の早期刈り取りを目指す。

特装車事業部 広島工場（塗装工場リニューアル）

目的（概要）	<ul style="list-style-type: none"> 塵芥車専用塗装工場新設による生産能力の増強 塗装外観品質向上のため新工法・新設備を導入
投資予定額	36億円
既支払額	3億円
完成年月	2027年3月
主な投資効果	<ul style="list-style-type: none"> 売上の増加（増産効果） ⇒生産能力を約8%UP CO2排出量の削減
[SG-2026] 期間中の減価償却費見込み	0億円

特装車事業部 佐野工場（大型工場建設）

目的（概要）	<ul style="list-style-type: none"> 防衛事業向け生産能力の増強と民需製品も複合した増産体制を構築（老朽化対応と合わせて実施）
投資予定額	75億円
既支払額	4億円
完成年月	2028年3月
主な投資効果	<ul style="list-style-type: none"> 売上の増加（増産効果） ⇒防衛関連製品の生産能力大幅UP CO2排出量の削減
[SG-2026] 期間中の減価償却費見込み	5億円

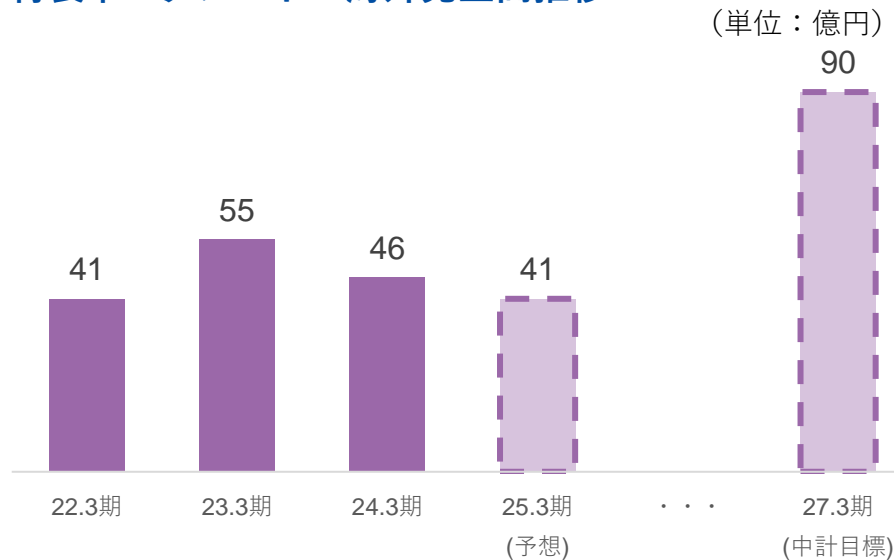
特装車事業部 寒川工場（塗装工場リニューアル）

目的（概要）	<ul style="list-style-type: none"> 中小型ダンプ、テールゲートリフタの製品競争力・生産能力の向上と省人化実現に向けた塗装工場を建設
投資予定額	54億円
既支払額	14億円
完成年月	2026年9月
主な投資効果	<ul style="list-style-type: none"> 売上の増加（増産効果） ⇒生産能力を約10%UP CO2排出量の削減
[SG-2026] 期間中の減価償却費見込み	6億円

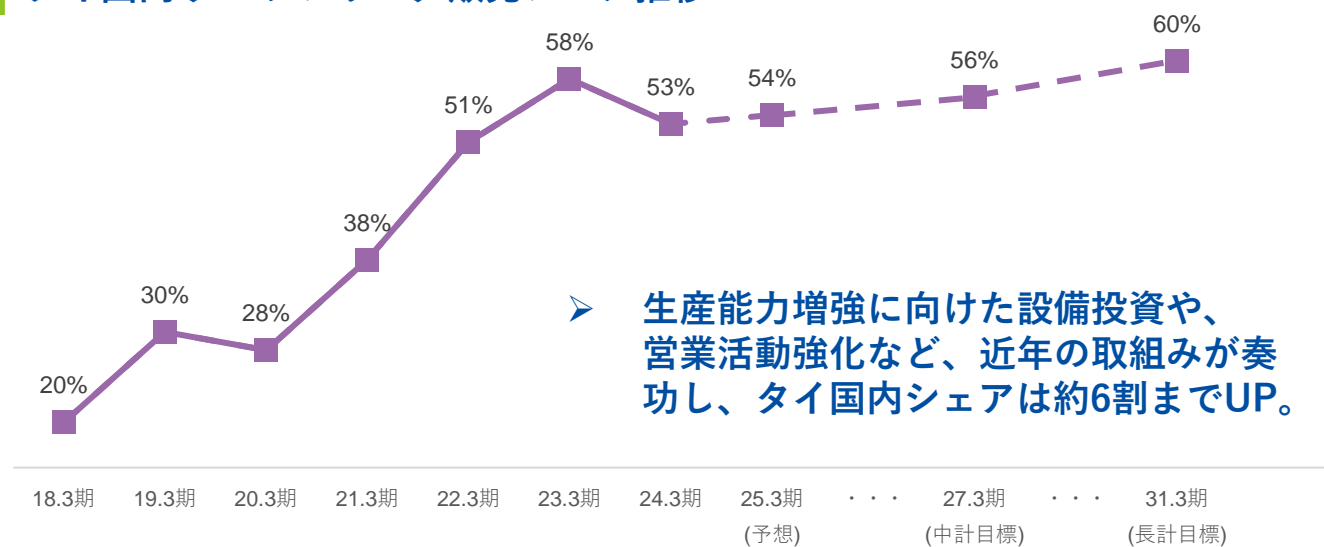
海外事業

- 供給能力を強化したThai Shinmaywa Co., Ltd.による、キーコンポーネントの拡販（タイ国内、第3国）。
- 架装物の輸出量増加に加え、海外協業パートナー企業のM&Aやアライアンスも検討。

特装車セグメント 海外売上高推移



タイ国内 ダンプシリンダ販売シェア推移



防衛関連事業

- 航空機セグメントとの協業により、防衛事業を拡大。防衛予算の増額を背景に、市場規模が拡大する見込み。
- 将来の増産対応を見据えて、生産能力強化に向けた投資を行う。

SSC※1 (ShinMaywa Smart Connect)

※1 SSC：専用アプリケーションの操作により、お客様がご購入された特装車の稼働状況などをスマートフォンによって容易に確認できるツール

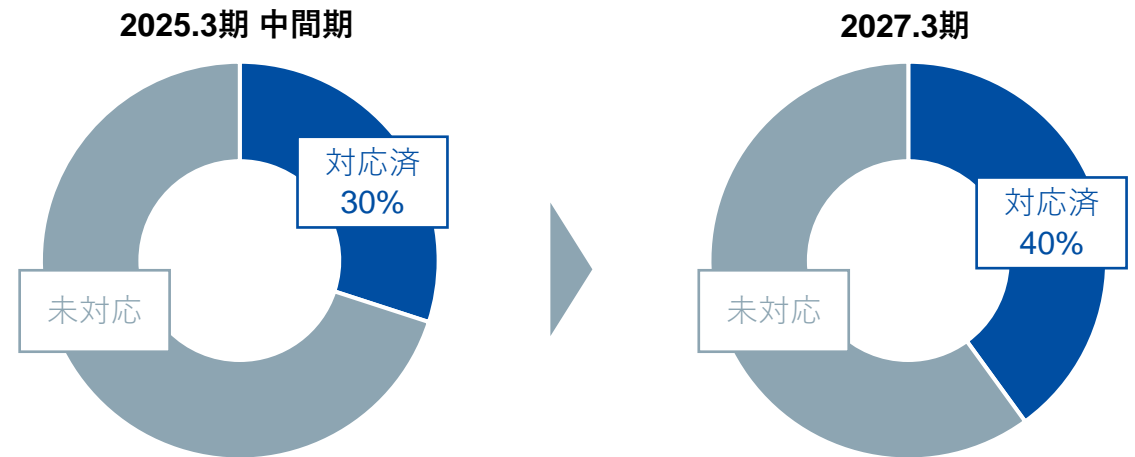


アプリの基本機能

修理窓口案内	トラブル発生時などに、最寄りの修理窓口の連絡先を表示し、ナビゲーションします。
新着情報表示	製品に関するお役立ち情報を随時表示します。
簡易取扱説明	製品の取扱いを解説します。
状態表示※2	車両の現在の情報を確認できます。
簡易診断機能※2	診断ボタンを押すと、製品の稼働状況が表示されます。

※2 通信対応車種が対応できる基本機能

車両と通信できる機種の台数割合



今後の取組み

- 対応製品の拡充により、市場でのSSC搭載車両台数は増加中。架装物の状態を把握し、ビフォアサービスを充実。
- サービス創出を得意とする会社と連携し、顧客の安全性・当社サービス事業の付加価値向上につながるサービス機能を拡充。

G-SUB (サブスクリプションサービス)

業界初 新明和の塵芥車のサブスクのしくみ



G-SUB 月々の定額料金

契約期間は2年・3年・5年。
契約終了後は「新車で再契約」
または、「車両返却で契約終了」となります。
注)同一車両での再リースはできません。



月々の定額料金
(頭金0円)だけで、
新車の塵芥車を
利用できる
新サービス

- 塵芥車・脱着車のシェアトップメーカーとして、豊富な情報を基にスマートな機能と使い方を提案します。
- 業界初のサブスクリプション形態でのサービスを提供。変化の激しい時代の、“持たない経営”を全面サポートします。
- サービス事業は、アフターサービスから税金、保険までコミコミで提供。最新機能が付いた働く車を、いつも最良な状態で、月々定額で利用できるだけでなく、下取りまでも当社が保証いたします。
- 更新期間を短期に設定することで、常に最新型、状態の良い車両を使用でき、作業者の確保にも貢献します。
- S S C (ShinMaywa Smart Connect) により予防整備の実施に繋げ、効率的なサービスを実施します。
- 短納期供給により、ユーザーの事業に対するサポート力を強化します。
- 中古車の確保が計画的に行え、中古車ビジネスの拡大にも寄与いたします。

塵芥車



脱着車



- 取扱台数の増加による売り上げ規模拡大に加え、サブスクリプションサービスが終了した車両を中古車として販売するビジネスモデルの早期確立を目指す。

BEV・FCEV対応

- カーボンニュートラル実現のため、電動車対応で業界をリード
- 多彩なシャシ、電源方式に対応するとともに、多様な製品で電動化を推進
 - ・ 3トンFCEV 回転板式塵芥車「G-RX」
 - ・ 2~3トンBEV 排出板式塵芥車「G-PX, G-RX」
 - ・ 2~4トンBEV リヤダンプトラック
 - ・ 3トンBEV 脱着ボデートラック「アームロール」
 - ・ 1トンBEV テールゲートリフタ「すいちょくゲート」
 - ・ 小型BEV リヤダンプトラック

3トンFCEV 塵芥車@G-RX



3トンBEV 脱着ボデートラック@アームロール



2トンBEV 塵芥車@G-PX



小型BEV リヤダンプトラック



3トンBEV リヤダンプトラック



- 当社においては、2021年のグリーン成長戦略を受け、車両総重量8トン未満の領域において、2030年までに新車販売台数の20~30%が電動車になることを想定。
- 国内外にシャシメーカーとの情報交換を密にし、EVシャシのリリースに即応できるよう準備を進めている状況。
- 2024年8月8日には、三菱ふそうトラック・バス株式会社の電気小型トラック「eCanter」の新型モデルに架装したEV（電気）脱着ボデートラックを発売。

補足資料

商号	新明和工業株式会社
本社	兵庫県宝塚市新明和町1-1
設立	1949年11月5日
資本金	15,981,967,991円
代表者	取締役社長 五十川 龍之 (いそがわ たつゆき)
従業員数	連結 6,413名 単体 3,306名 (2024年9月末現在)
連結子会社	29社

セグメント別 売上高 構成比 (24.3期)

航空機



その他

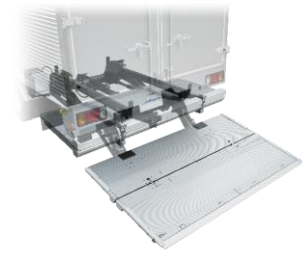
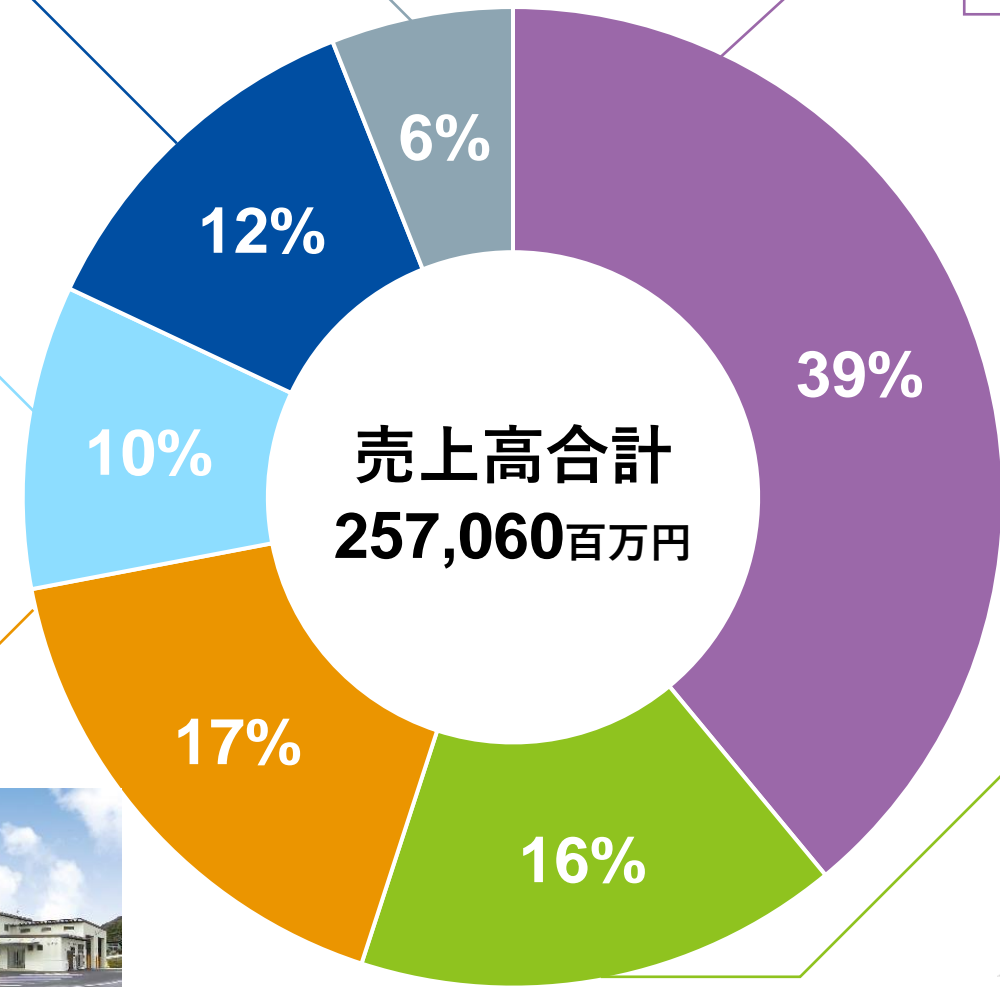
特装車



流体



産機・環境システム



パーキングシステム



経営成績

	15.3期	16.3期	17.3期	18.3期	19.3期	20.3期	21.3期	22.3期	23.3期	24.3期
売上高 (百万円)	193,131	203,917	201,204	207,335	217,297	227,231	209,226	216,823	225,175	257,060
営業利益 (百万円)	13,635	15,260	13,067	10,594	10,708	12,836	10,479	10,569	9,293	11,765
売上高営業利益率 (%)	7.1	7.5	6.5	5.1	4.9	5.6	5.0	4.9	4.1	4.6
経常利益 (百万円)	14,375	15,596	13,244	10,752	10,437	12,375	11,182	11,821	9,902	12,106
売上高経常利益率 (%)	7.4	7.6	6.6	5.2	4.8	5.4	5.3	5.5	4.4	4.7
親会社株主に帰属する 当期純利益 (百万円)	9,159	10,281	8,954	7,086	6,996	7,378	5,487	6,907	7,313	7,279
売上高当期純利益率 (%)	4.7	5.0	4.5	3.4	3.2	3.2	2.6	3.2	3.2	2.8
ROE (%)	9.1	9.4	7.7	5.8	6.8	8.9	6.4	7.7	7.6	7.1
ROIC* (%)	8.3	9.1	7.7	6.0	5.8	6.5	5.1	5.1	4.4	5.3

※ROIC = 営業利益 × (1 - 実効税率) / 投下資本 (= 有利子負債 + 自己資本) の期首期末平均値

財政状況

	15.3期	16.3期	17.3期	18.3期	19.3期	20.3期	21.3期	22.3期	23.3期	24.3期
総資産（百万円）	182,167	186,780	188,632	199,001	209,195	214,157	212,060	221,206	226,907	260,102
総資産回転率（回）	1.10	1.11	1.07	1.10	1.09	1.07	0.98	1.00	1.00	1.06
自己資本（百万円）	105,865	112,993	118,268	124,893	82,340	82,946	87,945	92,465	98,747	107,008
自己資本比率（%）	58.1	60.5	62.7	65.7	39.4	38.7	41.5	41.8	43.5	41.1
有利子負債（百万円）	4,188	2,000	150	90	49,893	57,568	54,539	52,254	52,417	50,616
ネットD/Eレシオ（倍）	△0.08	△0.13	△0.16	△0.15	0.32	0.46	0.36	0.28	0.30	0.25

キャッシュ・フロー

営業活動による キャッシュ・フロー（百万円）	9,485	14,767	14,342	8,699	13,452	8,509	18,120	15,998	6,404	14,065
投資活動による キャッシュ・フロー（百万円）	△5,817	△6,458	△6,039	△7,076	△9,693	△12,408	△9,133	△7,221	△7,164	△8,217
財務活動による キャッシュ・フロー（百万円）	△3,503	△4,023	△6,619	△1,647	△526	△1,419	△5,972	△5,203	△4,108	△5,884
現金及び現金同等物の 期末残高（百万円）	12,920	17,085	18,772	18,750	21,952	19,342	22,667	26,549	22,535	22,891

その他

	15.3期	16.3期	17.3期	18.3期	19.3期	20.3期	21.3期	22.3期	23.3期	24.3期
受注高 (百万円)	203,969	210,066	209,734	230,555	237,902	221,878	199,308	263,163	267,159	291,370
受注残高 (百万円)	118,759	124,529	132,742	156,185	177,310	171,925	161,686	210,338	255,859	291,431
1株当たり配当金 (円)	14	14	14	23	45	87	38	42	45	47
配当性向 (%)	15.2	13.6	15.0	31.0	58.9	76.9	45.5	40.0	40.5	42.6
1株当たり当期純利益 (円)	91.88	103.15	93.17	74.23	76.41	113.11	83.47	104.96	111.00	110.38
設備投資 (百万円)	4,408	5,657	6,854	6,525	6,442	7,100	9,205	4,782	4,465	6,891
減価償却費 (百万円)	4,093	4,362	4,763	5,025	5,064	5,442	5,768	5,564	5,321	5,225
研究開発費 (百万円)	2,789	2,845	2,717	2,836	2,575	2,401	2,356	2,282	2,476	2,602
従業員数 (人)	4,612	4,700	4,726	4,773	5,037	5,075	5,288	5,783	5,932	6,181
海外売上高 (百万円)	45,608	48,142	43,076	42,556	42,899	43,250	27,108	31,022	46,382	53,219
海外売上高比率 (%)	23.6	23.6	21.4	20.5	19.7	19.0	13.0	14.3	20.6	20.7

業績の推移 セグメント別①

(単位：百万円)

セグメント	項目	15.3期	16.3期	17.3期	18.3期	19.3期	20.3期	21.3期	22.3期	23.3期	24.3期
特装車	受注高	91,006	79,649	89,722	91,303	107,463	101,012	94,246	118,662	114,151	106,773
	売上高	84,775	87,462	89,304	90,317	92,333	94,627	94,777	97,190	91,311	100,523
	営業利益	6,929	6,748	8,348	6,313	6,544	6,802	6,707	5,354	707	2,313
	営業利益率 (%)	8.2	7.7	9.3	7.0	7.1	7.2	7.1	5.5	0.8	2.3
パーキングシステム	受注高	29,805	30,674	31,561	55,017	35,797	36,275	37,332	38,133	39,901	54,360
	売上高	27,440	29,359	31,145	31,979	33,863	37,805	35,228	38,099	38,627	41,338
	営業利益	1,330	1,814	1,850	1,780	2,343	3,223	3,228	3,066	2,686	2,765
	営業利益率 (%)	4.8	6.2	5.9	5.6	6.9	8.5	9.2	8.0	7.0	6.7
産機・環境システム	受注高	28,583	31,899	29,209	30,424	38,533	42,685	36,980	37,052	48,805	52,600
	売上高	27,928	30,155	29,451	30,099	33,810	38,370	37,195	25,560	33,425	42,985
	営業利益	1,878	1,985	2,219	2,468	2,474	2,748	2,989	1,724	2,923	3,359
	営業利益率 (%)	6.7	6.6	7.5	8.2	7.3	7.2	8.0	6.7	8.7	7.8

※ 23.3期より報告セグメント区分を見直し、「産機・環境システム」に含まれていた「流体」を報告セグメントとして記載しております。
これに伴い、22.3期の数値は組換後の数値で記載しております。

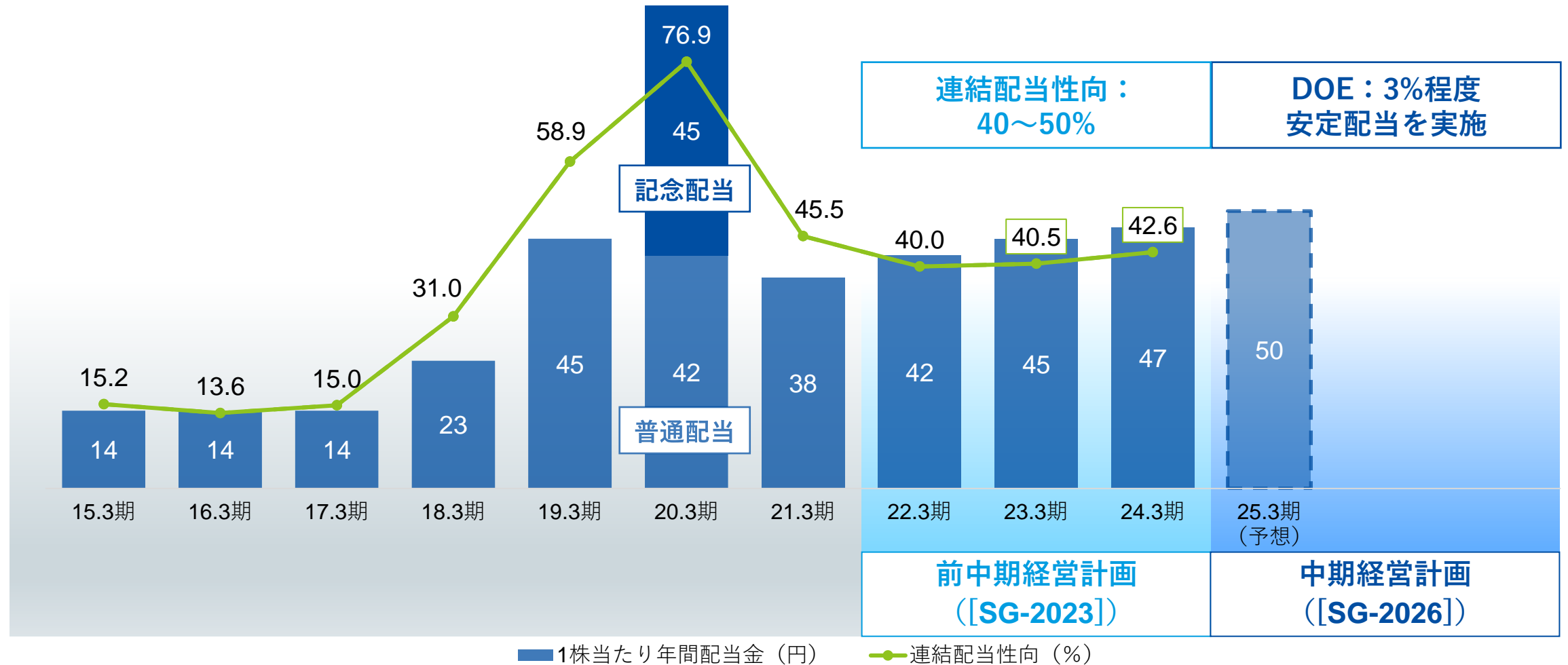
業績の推移 セグメント別②

(単位：百万円)

セグメント	項目	15.3期	16.3期	17.3期	18.3期	19.3期	20.3期	21.3期	22.3期	23.3期	24.3期
流体	受注高								22,130	25,165	26,344
	売上高								20,787	24,485	26,330
	営業利益								3,151	3,916	4,103
	営業利益率 (%)								15.2	16.0	15.6
航空機	受注高	44,068	55,502	43,741	40,803	35,772	30,393	13,378	31,711	24,187	32,690
	売上高	41,143	47,262	39,028	40,699	43,635	38,950	25,957	19,137	23,136	31,915
	営業利益	5,263	6,546	2,000	1,368	649	1,551	△808	△875	1,397	2,187
	営業利益率 (%)	12.8	13.9	5.1	3.4	1.5	4.0	△3.1	△4.6	6.0	6.9
その他	受注高	10,505	12,340	15,498	13,005	20,336	11,511	17,371	15,472	14,945	18,600
	売上高	11,843	9,677	12,274	14,239	13,654	17,476	16,066	16,047	14,188	13,968
	営業利益	439	796	960	1,049	1,037	1,193	1,445	955	739	667
	営業利益率 (%)	3.7	8.2	7.8	7.4	7.6	6.8	9.0	6.0	5.2	4.8

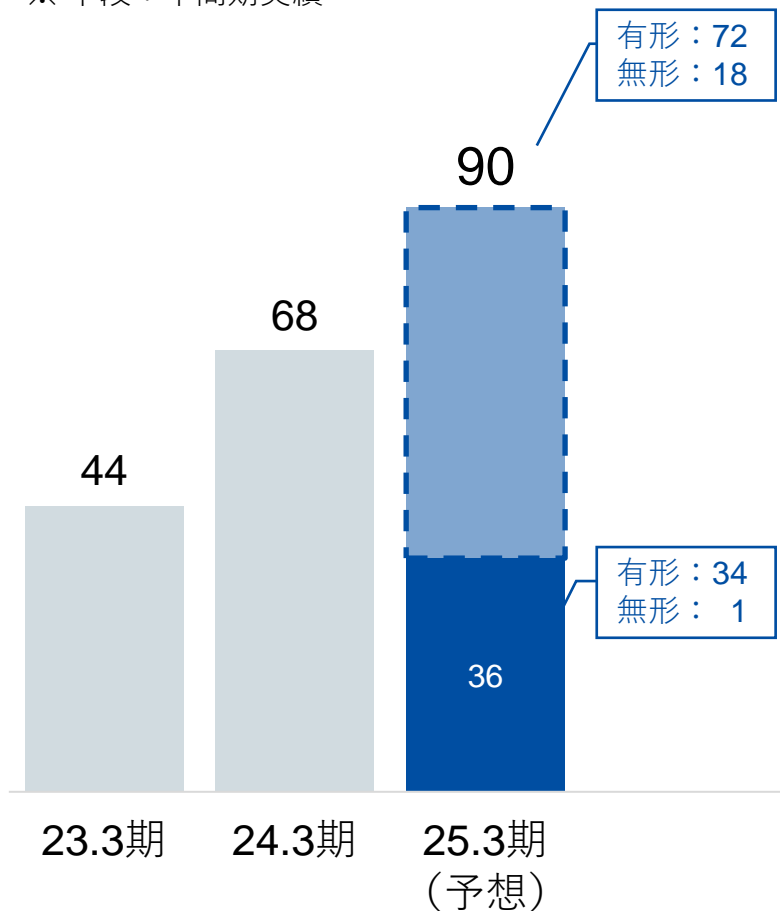
※ 23.3期より報告セグメント区分を見直し、「産機・環境システム」に含まれていた「流体」を報告セグメントとして記載しております。
これに伴い、22.3期の数値は組換後の数値で記載しております。

1株当たり配当金と連結配当性向の推移



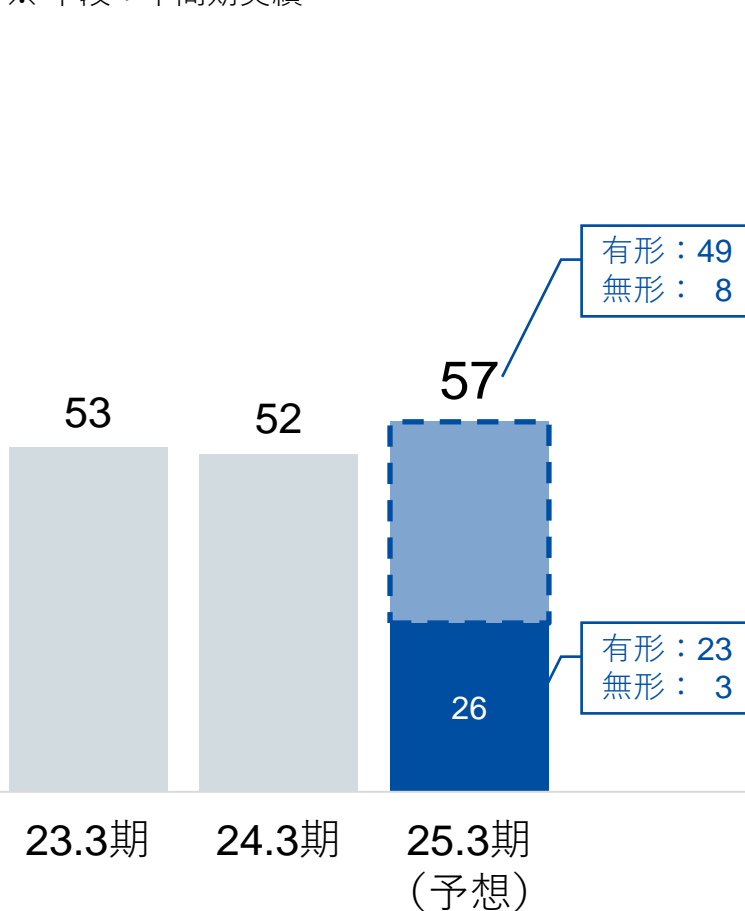
設備投資額 (単位：億円)

※ 下段：中間期実績



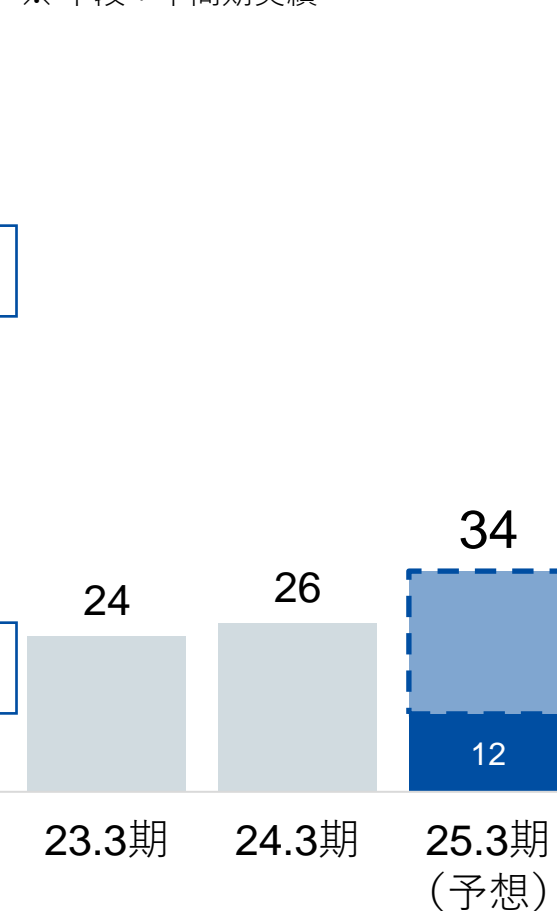
減価償却費 (単位：億円)

※ 下段：中間期実績



研究開発費 (単位：億円)

※ 下段：中間期実績



海外売上高 セグメント別

(単位：億円)

	特装車			パーキングシステム			産機・環境システム			流体			航空機			その他			合計		
	24.3期中間期	25.3期中間期	増減	24.3期中間期	25.3期中間期	増減	24.3期中間期	25.3期中間期	増減	24.3期中間期	25.3期中間期	増減	24.3期中間期	25.3期中間期	増減	24.3期中間期	25.3期中間期	増減	24.3期中間期	25.3期中間期	増減
日本	458	496	+37	173	185	+12	62	81	+18	67	64	△3	82	83	+1	61	85	+23	906	995	+89
アジア	8	6	△1	10	25	+14	36	24	△12	17	24	+7	-	-	-	-	-	-	73	80	+7
北米	-	-	-	-	-	-	89	54	△34	4	7	+3	61	66	+5	-	-	-	155	128	△26
その他	14	15	+0	-	-	-	7	8	+1	3	5	+1	3	5	+2	-	-	-	29	35	+5
売上高合計	482	518	+36	184	210	+26	196	169	△27	92	101	+8	147	155	+8	61	85	+23	1,164	1,240	+76
海外売上高比率 (%)	4.8	4.2	△0.6 pt	5.8	11.9	+6.1 pt	68.0	52.1	△15.9 pt	27.5	36.9	+9.4 pt	44.3	46.6	+2.3 pt	0	0	-	22.2	19.7	△2.5 pt



シェアードリサーチ社による
当社の調査レポートはこちら

当社は、投資家の皆さまに当社をより深くご理解いただくことを目的として、株式会社シェアードリサーチに投資に必要な情報を網羅した調査レポートの作成を依頼しております。

調査レポートは、企業分析と当社グループへの取材による情報を、投資家目線で中立かつ客観的に作成されており、決算発表やプレスリリース等に基づき、適宜更新されます。

<https://sharedresearch.jp/ja/companies/7224>

当社事業の理解促進にお役立て下さい。



新明和ってどんな会社？

個人投資家の皆様へ >
主要事業をわかりやすくご紹介しています。

沿革 >
歴史映像や、創業100周年を記念して制作した歴史コミックをご覧ください。

研究開発 >
都市・輸送・環境インフラの高度化に取り組んでいます。

動画ライブラリー >
会社案内や製品を動画でご紹介しています。

Sustainability >
経営方針やESGに関する活動を報告しています。

ShinMaywa INSIGHT >
社会と暮らしをより安全、便利、スムーズに変えていく新明和グループの取り組みをご覧ください。

IR問い合わせ先

ディスクロージャー・ポリシー

免責事項

個人投資家の皆様へ >
新明和グループを、より知っていただける情報をご案内します。

企業と投資家をツナグ RIMSNET
IR情報メール配信
配信のご登録はこちら

Shared Research
シェアードリサーチ社による当社の調査レポートはこちらをご覧ください。

当社の企業ニュースや財務活動をEメールでタイムリーにお知らせしています。

以下URLからアクセスできますので、ぜひご登録ください。

<https://rims.tr.mufg.jp/?sn=7224>



本資料は、新明和工業株式会社（以下「当社」といいます。）またはそのグループ会社（以下「当社グループ」といいます。）に関連する見直し、方針、経営戦略、目標、予定、事実の認識・評価などといった、将来に関する記述をはじめとする過去の事実以外の情報（以下「将来情報」といいます。）を含む場合があります。また当社の経営陣は将来情報に関する発言を行うことがあります。これらの将来情報の記載は、当社が入手した情報に基づく、本資料の日付（またはそこに別途明記された日付）時点における当社の予測を基礎として記載されているに過ぎません。また、見直し・目標等を策定するためには、過去の事実以外に、一定の前提（仮定）を使用しています。これらの記述ないし事実または前提（仮定）については、その性質上、客観的に正確であるという保証も将来その通りに実現するという保証もありません。

したがって、将来情報は、不確実性やリスク要因をあわせて考慮する必要がある点にご留意ください。当社の実際の業務・業績に著しい悪影響を及ぼす可能性がある重要なリスク要因は多数ありますが、これらに関する追加情報については、当社の決算短信、有価証券報告書等の当社の各種開示書類にも詳細な記載がございますので、ご参照ください。

なお、本資料における将来情報に関する記述は、上記のとおり本資料の日付（またはそこに別途明記された日付）時点のものであり、本資料の作成日以降に生じた事情により、将来情報に変更があった場合でも、当社はそれらの情報を最新のものに随時更新するという義務を負いかねますのでご了承ください。

また、本資料に記載されている当社ないし当社グループ以外の企業等にかかわる情報や意見は、公開情報等から引用したものであり、かかる情報の正確性・適切性等について当社は何らの検証も行っておらず、また、これを保証するものではありません。なお、本資料で使用するデータおよび表現等の欠落、誤謬、本情報の使用により引き起こされるいかなる損害等についても、当社は責任を負いかねますのでご了承ください。

本資料は、当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的として作成されたものではありません。投資に関する判断は、投資家各位の判断において行っていただきますよう、お願いいたします。

新明和工業株式会社